

## 第42回「放送文化基金賞」表彰対象について

### 放送文化基金賞

放送文化基金賞は、過去1年間(平成27年4月～28年3月)の放送の中から選ばれた、優れたテレビ、ラジオ番組や個人・グループに毎年贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、プロダクションなどから、全部で268件の応募、推薦がありました。4月から約2か月にわたる厳正な審査の結果、テレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの4つの番組部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16番組と、演技賞や企画賞など個人5件、さらに個人・グループ部門の放送文化、放送技術で8件の受賞が決まりました。

受賞番組のうち最優秀賞は、テレビドキュメンタリー番組『第30回民教協スペシャル しあわせ食堂 笑顔と孤独と優しさと』(青森放送)、テレビドラマ番組『年末ドラマ特別企画 赤めだか』(TBSテレビ)、テレビエンターテインメント番組『人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり』(東海テレビ放送)、ラジオ番組『贅の森』(CBCラジオ)に贈られます。

さらに、『TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場 天皇の料理番』(TBSテレビ)に出演した佐藤健さんと、『福岡発地域ドラマ いとの森の家』(NHK福岡放送局)に出演した樹木希林さんに演技賞が贈られます。

また、個人・グループ部門の放送文化では、さだまさしさんなど4件、放送技術では、テレビ朝日の「FPU, SNG共用受信アンテナ開発グループ」など4件が受賞します。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、番組部門最優秀賞—100万円、優秀賞—50万円、奨励賞—30万円、番組部門の個人賞—20万円、個人・グループ部門—30万円です。

### 贈呈式

放送文化基金賞の贈呈式は、平成28年7月5日(火)午後4時30分からホテルオークラ東京(東京都港区虎ノ門)で行います。

第42回「放送文化基金賞」表彰対象

1. 番組部門—————16番組、5件

- (1) テレビドキュメンタリー番組……………5番組  
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—3
- (2) テレビドラマ番組……………4番組  
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- (3) テレビエンターテインメント番組……………4番組  
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—2
- (4) ラジオ番組……………3番組  
最優秀賞—1 優秀賞—1 奨励賞—1
- (5) 個人……………5件
  - 「演技賞」——2件
  - 「企画賞」——1件
  - 「演出賞」——1件
  - 「脚本賞」——1件

2. 個人・グループ部門—————8件

- (1) 放送文化……………4件
- (2) 放送技術……………4件

お問い合わせ先 放送文化基金(担当 安部、川副)  
東京都渋谷区宇田川町41-1 共同ビル5F  
TEL(03)3464-3131

## 第42回「放送文化基金賞」受賞一覧

部 門	賞 (賞金)	受賞者	番組名・業績		
番 組 部 門	テレビドキュメンタリー番組	最優秀賞 (100万円)	青森放送	第30回民教協スペシャル しあわせ食堂 笑顔と孤独と優しさと	
		優秀賞 (50万円)	NHK	NHKスペシャル 原発メルトダウン 危機の88時間	
		(30万円)	北日本放送	KNBふるさとスペシャル 沈黙の70年 富山大空襲と孤児たちの戦後	
		奨励賞 (30万円)	NHK大阪放送局、NHK神戸放送局	NHKスペシャル 震度7 何が生死を分けたのか ～埋もれたデータ 21年目の真実～	
	テレビドラマ番組	(30万円)	テムジン、NHK、NHKエンタープライズ	NHKスペシャル 女たちの太平洋戦争 従軍看護婦 激戦地の記録	
		最優秀賞 (100万円)	TBSテレビ	年末ドラマ特別企画 赤めだか	
		優秀賞 (50万円)	TBSテレビ	TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場 天皇の料理番	
		(30万円)	ビーエス朝日	B S朝日開局15周年記念番組 大江戸事件帖 美味でそうろう	
	テレビエンターテインメント番組	(30万円)	NHK福岡放送局	福岡発地域ドラマ いとの森の家	
		奨励賞 (30万円)	NHK福岡放送局	福岡発地域ドラマ いとの森の家	
		最優秀賞 (100万円)	東海テレビ放送	人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり	
		優秀賞 (50万円)	テレコムスタッフ、NHK、NHKエデュケーショナル	100分de平和論	
	ラジオ番組	(30万円)	NHK	プラタモリ	
		奨励賞 (30万円)	山陰放送	水木しげる93歳の探検記 ～妖怪と暮らした出雲国～	
		最優秀賞 (100万円)	CBCラジオ	贅の森	
		優秀賞 (50万円)	NHK名古屋放送局	FMシアター あいちゃんは幻	
		奨励賞 (30万円)	西宮コミュニティ放送	さくらFMスペシャル ～福山雅治「被爆クスノキ」へのメッセージ	
	個人・グループ部門	放送文化	演技賞 (20万円)	佐藤 健	TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場 天皇の料理番
			演技賞 (20万円)	樹木希林	福岡発地域ドラマ いとの森の家
			企画賞 (20万円)	小山田文泰	しあわせ食堂 笑顔と孤独と優しさと
演出賞 (20万円)			羽根井信英	100分de平和論	
脚本賞 (20万円)			瀬戸山美咲	FMシアター あいちゃんは幻	
個人・グループ部門	放送文化	(30万円)	さだまさし (シンガーソングライター、小説家)	多才な活動を通して放送文化の発展・向上に貢献	
		(30万円)	藤井 稔 (CBCテレビ プロデューサー)	優れたドキュメンタリー番組の制作と放送表現の開拓	
		(30万円)	「被災地からの声」制作チーム (NHK仙台放送局)	震災直後から5年間にわたるウィークリー番組「被災地からの声」の制作	
		(30万円)	NHK「ハートネットTV」班 戦後70年関連制作チーム (NHK)	福祉の戦中戦後を振り返り、未来を考える一連の番組制作	
	放送技術	(30万円)	FPU、SNG共用受信アンテナ開発グループ 代表 鈴木高幸 (テレビ朝日)	FPU、SNG共用受信アンテナの開発	
		(30万円)	廣田和浩 (山陽放送)	HTML5を用いた自局放送プログラム確認システム「Tereco」の開発	
		(30万円)	多視点ロボットカメラ開発グループ 代表 池谷健佑 (NHK)	多視点ロボットカメラによる「ぐるっとビジョン」を用いた新しい映像表現技術の開発	
		(30万円)	伊藤正史 (フジテレビジョン)	現行地上波でHDと4Kのサイマル視聴を実現する番組技術の開発	

\*番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

第42回 放送文化基金賞

「番組部門」

— テレビドキュメンタリー番組 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
第30回民教協スペシャル しあわせ食堂 笑顔と孤独と優しさ と  平成 28. 2. 11 (木)  青森放送	プロデューサー 橋本 康成 ディレクター 雪竹 弘一 小山田文泰 構成 金杉 文夫 ナレーション 永作 博美 撮影 藤林 国仁 音声 脇坂 幸司 音楽 田中 斉 調整 白戸 祝人 木村 敬一 CG 柿崎 馨太 MA 浜元 瑞樹 題字 伊藤 康子  出演 石木 基夫 石木 公子 三国亜希子 阿部 シゲ 前島 一夫 前島フミエ	青森市浅虫の医師・石木基夫先生は、「一日一食でも高齢者にバランスの取れた食事を」と、2003年に「浅めし食堂」を立ち上げた。食堂はその健康長寿ランチが人気を集め、次第に地域の高齢者に受け入れられていった。 1918年(大正7年)生まれの阿部シゲさんは「浅めし食堂」の常連客だ。長く仙台で暮らしたシゲさんが内縁の夫と死に別れ、生まれ故郷の浅虫に戻ってきたのは79歳の時。アパートで一人暮らしを始めたシゲさんは、知人も少なく、賑やかな食卓に飢えていた。そんな時「浅めし食堂」がオープンしたのだ。 2013年、「浅めし食堂」は高齢者施設の中に移転し、入居者の三度の食事を出すことになった。石木先生に勧められ、シゲさんはこの食堂のある施設に引っ越した。若い頃から苦労を重ねてきたシゲさんは、97歳になる今、ここに自分の居場所を見つけた。 番組では、高齢者の健康を守ろうという小さな食堂の挑戦から、「幸せな老後」とは何かを探る。	必然的に求められる医療介護に取り組む病院に焦点を合わせ、その移り変わりを淡々と記録した。 長寿であることの幸せと悲しみ、安定した日常の得がたさを浅虫温泉に向き合う沖の小島「湯の島」の美しいイメージに随伴させながら静かに語った作品で、一見凡庸、その実みごとに非凡な作品。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
NHKスペシャル 原発メルトダウン 危機の88時間  平成 28. 3. 13 (日)  NHK	ディレクター 鈴木 章雄 藤川 正浩 演出 谷川 功 プロデューサー 大野 秀樹 脚本 古川 健 撮影 藤田 浩久 音響効果 小野さおり 制作統括 中村 直文 浅井 健博 戸来 久雄  出演 大杉 漣 升 毅 西村 和彦 利重 剛 千葉 哲也 石丸謙二郎 中原 丈雄	5年前、世界最悪レベルの原発事故を起こした東京電力・福島第一原発。NHKは2年前にこの世を去った吉田昌郎元所長の“未公開”調書を手に入れた。「東日本壊滅を覚悟した」と吉田所長が語った現場でいったい何が起きていたのか。“未公開”調書や、500人におよぶ事故の当事者の証言を元に、事故が最も深刻化し現場が「死を覚悟する」まで追い詰められた“88時間”を徹底検証。原発という密室で、暴れる複数の原子炉と“人間”が相対するという人類史上初めて直面した事態を紐解き、「人類は“核”を制御できるのか」という根源的な問いに向き合う。	3年前に当コンクールで最優秀賞を受賞した作品を継承しながら、その後新たに発掘された事実を再現ドラマ化し、難解な原発の仕組み、メルトダウンの恐怖を真摯に伝えている。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>KNBふるさとスペシャル 沈黙の70年 富山大空襲と孤児たちの戦後</p> <p>平成 27. 8. 13 (木)</p> <p>北日本放送</p>	<p>ナレーション 中里 雅子 撮影 村井 一弘 音声 花田 千春 宮本 敏郎 音響効果 片野 正美 ミキサー 中木 輝一 美術 北日本印刷 編集 平島 健一 ディレクター 岡部 英明 取材・構成 濱谷 一郎 プロデューサー 桐谷 真吾</p>	<p>昭和 20 年 8 月 2 日未明、米軍の爆撃機 B29 による富山大空襲。約 56 万発の焼夷弾で富山市は壊滅的な打撃を受け、死者は約 3000 人に上った。焼け跡には親を亡くし、家を失った子どもたちがいた。戦争孤児だ。富山県には国が確認しただけで 427 人がいた。『孤児たちはどこへ行ったのか。どう生きてきたのか。』かすかな手掛かりをもとにたどりついた孤児たちは、過酷な体験を家族にすら語りすることができず、社会の偏見から自らの境遇を隠すように暮らしてきたことが分かった。「終戦からが本当の戦いだっただ」という。孤児たちの埋もれた 70 年に迫ることで、戦争の実像を浮かび上がらせる。</p>	<p>終戦直後の爆撃により親を失い孤児となった人たちのその後を描くものだが、戦後 70 年を静かに追想するありようが評価された。</p>
<p>NHKスペシャル 震度 7 何が生死を分けたのか ～埋もれたデータ 21 年目の真実～</p> <p>平成 28. 1. 17 (日)</p> <p>NHK大阪放送局 NHK神戸放送局</p>	<p>制作統括 東條 充敏 中村 淳 山根 泰延 杉田 陽介 ディレクター 吉見 和紀 中川雄一朗 川上 雄三 阿部 博史 取材 小林 智紀 森野 周 小林 達記 撮影 田上 一郎 竹内 宏之 照明 戸井 敦郎 編集 久慈 源紀 CG制作 山田 成彦 VFX 鈴木 聡 音響効果 東谷 尚 語り 役所 広司 杉浦 圭子</p>	<p>史上初めて震度 7 を記録し、6434 人が犠牲になった阪神・淡路大震災。21 年前の被災直後、死因、死亡時刻、家屋の被害状況、火災の広がり方、救助の動きなど、「生と死」に関する膨大なデータが収集されていた。今回、50 万件を超えるデータを再発掘、最新の技術で可視化した。すると、都市直下地震が時間の経過とともにどのように命を奪っていくのか、その実像が初めて明らかになった。さらに事前に備えをしていれば救えたはずの命が数多くあったこともわかってきた。埋もれたデータに光をあて、次の大地震に備えて何をすべきか、警鐘を鳴らした。</p>	<p>神戸・淡路大震災後に新たに発掘された様々な被害状況を示すデータを総括することによって、大都市災害の問題点を鮮やかに捉えていた。</p>
<p>NHKスペシャル 女たちの太平洋戦争 従軍看護婦 激戦地の記録</p> <p>平成 27. 8. 13 (木)</p> <p>テムジン NHK NHKエンタープライズ</p>	<p>語り 伊東 敏恵 制作統括 太田 宏一 伊藤 純 矢島 良彰 ディレクター 小柳 ちひろ 内山 直樹 取材 柳田 香帆 撮影 後藤 一平 音声 明里 和幸 編集 森田 光 音響効果 海老原正倫</p>	<p>戦時中、アジア・太平洋の戦場に従軍看護婦として派遣された女性たちは 5 万人を超える。しかし、使命感に燃えて任地に向かった彼女たちを待ち受けていたのは、あまりに過酷な戦場の現実だった。献身的な看護のかいもなく次々と亡くなっていく傷病兵。そして、戦況が悪化する中、看護婦たちも生死の境をさ迷うまでに追いつめられる。派遣されてから帰国するまでを克明に記した業務報告書と、20 人を超える元従軍看護婦の証言をもとに、激戦地ビルマとフィリピンでおびただしい数の死と向き合い続けた女性たちの戦争を描く。</p>	<p>これまでも幾度か評価されてきたテムジンと NHK の共同制作によるものだが、この作品でもこれまで通りに一貫して「戦争と女性」を追求する姿に心を揺さぶられるものがあった。</p>

第42回 放送文化基金賞

「番組部門」

— テレビドラマ番組 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
年末ドラマ特別企画 赤めだか          平成 27. 12. 28 (月)   TBSテレビ	原作 立川 談春 脚本 八津 弘幸 プロデューサー 伊與田英徳 渡瀬 暁彦 演出 タカハタ秀太 ナレーション 薬師丸ひろ子 出演 二宮 和也 ビートたけし 濱田 岳 宮川 大輔 中村勘九郎 さだまさし 北村有起哉 香川 照之 リー・フランキー (ナビゲーター) 笑福亭鶴瓶 ほか	今チケットの入手が最も困難と言われる落語家・立川談春が、談志に弟子入りし真打ちになるまでを描いた「赤めだか」が原作のドラマ。80年代の漫オブームの頃、17歳の信行(二宮和也)は、天才落語家・立川談志(ビートたけし)に弟子入りすべく、その門を叩いた。「両親とも亡くなった」という嘘に気づいていたものの、談志は信行に談春という名前を与え、立川流に入門を許す。談々(北村有起哉)、関西(宮川大輔)ら兄弟子とともに、談志のはちゃめちやな用事をこなしていくも、落語の稽古をつけてもらえない日々疑問を感じる談春。ある日、兄弟子の志の輔(香川照之)から「それが嫌なら早く二ツ目になれ」と言われ、談春は寝る間も惜しんでネタを覚えるようになる。しかしある出来事で談志の怒りを買ひ、築地修業に出されてしまう。そのうえのちに弟子入りした志らく(濱田岳)は築地修業を断ったと聞き、本人に文句を言いに行くが…。二ツ目になりたい!ともがきながら、日々を必死に生きる談春と仲間の、笑いあり、涙ありの青春落語グラフィティ!	落語家・立川談春の同題のエッセイを元に、17歳で立川談志に入門して二ツ目になるまでの談春(二宮和也)を描く成長物語である。一見理不尽な「厳しい教え」に耐えて、談志の精神を受け継ごうとする若者たちの「芸への思い」が圧倒的なパワーをもって描かれている。厳しさを自らのものとすることで人は成長できることを教えてくれる啓発的ドラマでありながら、笑いを随所に盛り込んで、見る者をぐいぐい引き込むストーリー展開は、圧巻であった。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
TBSテレビ60周年特別企画 日曜劇場 天皇の料理番       平成 27. 4. 26 (日) ~7. 12 (日) <全12回> 応募は第1回  TBSテレビ	脚本 森下 佳子 プロデュース 石丸 彰彦 演出 平川雄一郎 出演 佐藤 健 黒木 華 桐谷 健太 柄本 佑 高岡 早紀 鈴木 亮平 武田 鉄矢 美保 純 杉本 哲太 小林 薫 ほか	1894年、福井県武生。何をやっても長続きのしない篤蔵は、鯖江連隊のシェフ・田辺に食べさせてもらったカツカツに運命を変えられてしまう。「大日本一のコックになる」と言っ妻・俊子を残し上京する篤蔵。華族会館の料理長宇佐美、フランス料理の神様エスコフィエの下厳しい修行に耐え、家族、仲間の愛に支えられ、明治天皇の料理番に就任する事になる。 明治、大正、昭和にかけての激動の時代。料理に夢を見て、必死で駆け抜けた男がいた。そこには、家族、友人、師匠、かけがえのない人達の支えがあった。己の生涯を夢に捧げつくした男と支え続けた人達の愛の物語。	キャスティング、ストーリーの構成どれもとっても完成度が高く、次が見たいと思わせる、ドラマの王道を行く作品である。 佐藤健のほか、黒木華、鈴木亮平ら俳優たちの演技の質がみな高かったことも評価された。

奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>BS朝日開局15周年記念番組 大江戸事件帖 美味でそうろう</p> <p>平成 27. 12. 4 (金) ～12. 5 (土) 〈全2回〉 応募は第1回</p> <p>ビーエス朝日</p>	<p>脚本 柏田 道夫 大石 哲也</p> <p>監督 濱 龍也</p> <p>プロデューサー 江野 夏平 丸山 真哉 西口 典子</p> <p>音楽 吉川 清之</p> <p>撮影 日下 誠</p> <p>ラインプロデューサー 芦田 淳也</p> <p>照明 高田 玄鎮</p> <p>出演 北村 一輝 南沢 奈央 中村 雅俊 中村橋之助 若村麻由美 三遊亭円楽 小野寺 昭 西田 健 ほか</p>	<p>かわら版屋を生業とする浪人・柿江新平太（北村一輝）が、類稀なる味覚を武器に難事件を解決していく。舞台は江戸後期、天保の改革の頃。役人と商人の癒着が蔓延し、庶民の不満は爆発寸前だった。新平太は、南町奉行・遠山金四郎（中村橋之助）からの密命を受け情報収集にあたるが、そこで驚愕の事実を知るに至る。かの豪商の裏番頭として暗躍していたのは、幼い頃に生き別れた父・市之進（中村雅俊）だったのだ。さらに、豪商からの裏金で政権維持を目論む老中・水野忠邦（小野寺昭）の汚職疑惑も突き止め、事態は幕府を巻き込む疑獄事件へと発展していく…。</p>	<p>時代劇の設定に美食とミステリーとを加えた新しい企画であり、メインの登場人物たちがいずれも魅力的に描かれ、親しみをもって楽しめる作りとなっている。特にエンターテインメント性の高さが評価された。</p>
<p>福岡発地域ドラマ いとりの森の家</p> <p>平成 27. 12. 4 (金) ～12. 11 (金) 〈全2回〉</p> <p>NHK福岡放送局</p>	<p>原作 東 直子</p> <p>脚本 坂口 理子</p> <p>音楽 三柴 恵</p> <p>制作統括 福島 広明</p> <p>演出 木寺 一孝</p> <p>美術 犬飼 伸治</p> <p>制作主任 渡部 祐樹</p> <p>演出補 佐原 裕貴</p> <p>編集 渡辺 政男</p> <p>音響効果 細見 浩三</p> <p>技術 福島 芳樹</p> <p>撮影 井ノ口輝憲</p> <p>照明 権藤 直之</p> <p>音声 高橋 英明</p> <p>映像技術 小川正一郎</p> <p>出演 永作 博美 樹木 希林 渡辺真起子 中村 蒼 濱田ここね 須田 邦裕 品川 徹 ほか</p>	<p>東京で満たされない日々を過ごす主婦・加奈子（永作博美）が糸島を訪れたのは、小4以来だった。当時の親友・咲子（渡辺真起子）に呼ばれたのだ。咲子に誘われ、歴史と自然豊かな糸島巡りに出かける加奈子。その中で、森の家に住み、人知れず死刑囚との交流を続けていた老婦人・おハルさん（樹木希林）が教えてくれた「命のレッスン」がよみがえってくる。そして、咲子が加奈子を呼び出した本当の訳が告げられる。翌日、加奈子は、突然姿を消したというおハルさんの足跡を追う。明らかになってくるのは、おハルさんの意外な過去と託されたメッセージだった…。</p>	<p>糸島の豊かな自然を背景に、戦時中の罪の記憶を背負って生きる老女と小学生との交流を追憶のなかに描いた。「幸せとは何か」というメッセージを込めつつ、戦争をすくい取った点が評価された。なによりも、静かな感動を与えてくれた樹木希林の演技が光った。</p>

第42回 放送文化基金賞  
「番組部門」  
— テレビエンターテインメント番組 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり  平成 28. 3. 20 (日)  東海テレビ放送	プロデューサー 阿武野勝彦 ディレクター 伏原 健之 撮影 村田 敦崇 音声 伊藤 紀明 編集 奥田 繁 音響効果 久保田吉根 TK 須田麻記子 音楽 村井 秀清 音楽プロデューサー 岡田こずえ ナレーション 樹木 希林 出演 津端 修一 津端 英子	名古屋のベッドタウン、高蔵寺ニュータウンに90歳と87歳の老夫婦が暮らしている。津端修一さんは建築家で、奥さんの英子さんは料理上手。敷地に雑木林を作り、野菜や果物を育てている。1960年伊勢湾台風の高台移転として、日本住宅公団のエースだった修一さんが、高蔵寺ニュータウンの設計を任された。雑木林を風の通り道にし、元の土地の記憶を残そうとした理想の街づくりだった。しかし時代は経済優先、詰め込み型の集合住宅化へと変更。大きな挫折だったが、それでもこの町に住み続けて50年がたった。小さな苗木は雑木林に成長し、畑では100種類もの野菜や果実が育つ。英子さんは、畑でとれた作物で修一さんに手料理をふるまう日々。彼女は言う、「食は命」と。2人の家は30畳一間の丸太小屋。その暮らしはまるで現代の桃源郷のよう。2人は言う「年を重ねるごとに美しくなる人生にしたい」と。スローライフというとちょっと軽いし、半自給自足というとなんか泥臭い…。えも言われぬ夫婦の暮らしを追って“人生のものがたり”を描いた。	経済効率優先の社会で、人間らしい生き方とは何かをじんわり問いかけてくる。 2年間かけてゆっくり、コツコツ取材したというこの番組の作り方そのものが、老夫婦の生き方と見事に重なり合っている。津端修一氏の人生を通して、戦後史も浮かび上がってくる。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
100分 de 平和論  平成 28. 1. 2 (土)  テレコムスタッフ NHK NHKエデュケーションナル	制作統括 渡辺 圭 秋満 吉彦 プロデューサー 横山 敏子 ディレクター 羽根井信英 アシスタントディレクター 世継 夏南 カメラマン 長谷部雅治 編集 大泉 渉 出演 伊集院 光 武内 陶子 斎藤 環 水野 和夫 田中 優子 高橋源一郎 朗読 長塚 京三 ナレーション 大沼ひろみ	平和安全法制、I Sとシリア難民問題、そしてパリ同時多発テロ……。国内外が大きく揺れた2015年を受け、『100分 de 名著』の新春スペシャルは、世界の名著を紐解きながら「平和」について考えた。 フロイト『人はなぜ戦争をするのか』からは人間の心にある暴力性、ブローデル『地中海』からは近代資本主義がもたらす格差と戦争、井原西鶴『日本永代蔵』からは江戸の循環社会の知恵、ヴォルテール『寛容論』からは宗教的不寛容の問題を議論。平和を実現するためには何が必要かを考察する。	タイムリーな内容であると同時に完成度の高い読書教養エンターテインメントに仕上がっており、制作者の演出力の高さを評価したい。 MCの伊集院光氏の的確でわかりやすいコメントは、番組内容を理解する上で大きな手助けとなっている。



奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>ブラタモリ</p> <p>平成 27. 4. 11 (土) ~ 毎週土曜日放送中 応募は「#14 松江」、「#21 富士山頂」</p> <p>NHK</p>	<p>制作統括 山名 啓雄 中村 貴志 プロデューサー 垣東 大介 石原謙一郎 ディレクター 山内 太郎 森崎 章子 構成 関 秀章 武田 浩 出演 タモリ 桑子 真帆 ナレーション 草薙 剛</p>	<p>町歩き達人・タモリさんが、“ブラブラ” 歩きながら知られざる町の歴史や人々の暮らしに迫る「ブラタモリ」。</p> <p>2015年4月からリニューアルして、3年ぶりにレギュラー番組として復活しました。</p> <p>今回からは、タモリさん念願の全国各地でのロケを実現。地形や古地図をヒントに、タモリさん独自の視点で地域の歴史や文化に迫り、町の新たな魅力を掘り起こします。</p>	<p>数ある散歩番組の中で、一線を画する内容の濃い番組である。</p> <p>町歩き達人タモリ氏と番組制作者の取材力が見事に絡み合っている。歴史の地層の上に私たちの暮らしがあることを教えてくれる。</p>
<p>水木しげる 93歳の探検記 ～妖怪と暮らした出雲国～</p> <p>平成 27. 9. 5 (土)</p> <p>山陰放送</p>	<p>チーフプロデューサー 杉原 充子 企画・プロデューサー 北井 勇作 ディレクター 加藤 正寿 構成 塚田 ゆみ 撮影 田中 洋介 岩崎 修二 音声 田渕 雅巳 出演 水木しげる 荒俣 宏 小泉 凡</p>	<p>悠久の時を経て古代の営みを今に受け継ぐ出雲。そこには目には見えない別の世界の入り口があるという。幼少の頃から出雲の世界に魅了され、漫画家としての礎を築いた水木しげるさんは今年(2015年)93歳。今一度、心のふるさとして出雲を探検したいと言う。米子鬼太郎空港に舞い降りた水木さんを待ち構えていたのは、自称「一番弟子」の荒俣宏さん。今なお好奇心旺盛な二人が、異界との接点を探りながら、島根半島の日本海側を中心に古代の自然が残る出雲を巡る。旅の最後には驚きのニュースが…。それは水木さんさえ知らなかった、あの“のんのんばあ”の情報だった…。</p>	<p>水木しげる氏のみならず、周りで支えている人の想いや出雲の土地が持っている神秘性までもが見る者に伝わってくる。</p> <p>水木氏の様々な表情をカメラがしっかりと捉えており、妖怪の世界を描くことで伝えたかった彼の最後のメッセージが番組の中に表現されている。</p>

第42回 放送文化基金賞

「番組部門」

— ラジオ番組 —

最優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
贄の森          平成 27. 11. 22 (日)   CBCラジオ	プロデューサー 森合 康行 ディレクター 森 理恵子 監修 後藤 克幸 細井 麻郎 音響・効果 館 一孝 プレゼンター 古川枝里子 取材協力 太田哲太郎 出演 村瀬 隆夫 鈴木 正嗣	近年日本の各地で、野生動物をめぐる様々な問題が増えています。特に中山間地域で、シカ・サルなどによる農作物被害が深刻化しています。農林水産省はその対策として、各自治体に補助金を出し「有害鳥獣駆除隊」を設置して、動物の個体数を減らそうとしています。この駆除隊の多くは、狩猟免許を持つ「猟友会」に委ねられ、猟期以外にも自治体や農家から駆除の依頼を受け、野生動物の殺処分を行なっています。しかし、猟友会の方々にとって「狩猟」でない「駆除」は、肉体的にも精神的にも大きな負担です。 専門家は、野生動物が里へ降りてくる現状に関し「これまでの日本の乱獲や保護政策の歴史、森林政策などが複雑に絡み合っている」と指摘します。 番組では、あまり知られていない「有害鳥獣駆除隊」の実態を紹介しながら「狩猟」と「駆除」のはざまで揺れる猟友会の方々の心の葛藤を描き、問題の深さを訴えます。	狩猟と有害鳥獣駆除とのはざまで揺れる岐阜県の猟友会会長に密着し、野生動物たちの生息環境の変化や駆除の実情、国の方針転換、自然保護と駆除という矛盾を浮き彫りにした。 自然とともに暮らしてきた日本の「狩猟」の伝統が傷つけられる悲鳴が聞こえてくるかのような作品。

優秀賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
FMシアター あいちゃんは幻          平成 28. 1. 30 (土)   NHK名古屋放送局	制作統括 櫻井 壮一 制作デスク 大久保 篤 技術 山本 能弘 森下あすか 音響効果 澤田 智哉 演出 笠浦 友愛 脚本 瀬戸山美咲 音楽 福廣秀一朗 出演 安藤サクラ 成海 璃子 野間口 徹 落合モトキ 外山 文孝 棚橋 真典 湯浅 浩史 黒田 啓之 川本麻里那 伊藤 友乃 山脇 真 伊藤 玄紀	キャバクラで働くミカ(25歳)と、出会い系サイトでサクラをしているハナ(23歳)。どこかうまく生きられない者同士の共同生活。ある夜、仕事にイラついたミカはハナのことを「人をだまして稼いでいる!」となじった。まもなく、ハナの姿が消える。心配するミカは、出会い系サイトの事務所を訪ねる。そこでハナが演じていたサクラのキャラクター「あいちゃん」の代役をまかされてしまう――。 都会の片隅で生きる女二人の屈折した友情と、自分を取り戻していく姿を表情豊かに描くヒューマンドラマ。	パーチャルな空間で人気を呼ぶ架空のキャラクターを通して「虚と実」があいまいな現代を浮遊する若い世代の心象風景を鮮やかに描き、聴く者を惹きつける。

## 奨励賞

タイトル・放送日・制作	スタッフ・出演者等	概要	選考理由
<p>さくらFMスペシャル ～福山雅治「被爆ク スノキ」へのメッセ ージ</p> <p>平成 27. 7. 18 (土)</p> <p>西宮コミュニティ放 送</p>	<p>企画・構成 岩田 隆清 ディレクター 岡田 清 プロデューサー 北村 英夫 録音・編集 原 陽平 監修 前田 朋子 出演 中谷 哲久 城向 博子</p>	<p>福山さん作詞・作曲の「クスノキ」は、原爆ファットマンで黒コゲになりながら数年後再生し、被爆者を勇気づけた山王神社のクスノキです。</p> <p>終戦間際、米軍はファットマンと形も、大きさも、重さも、弾道特性も同じ模擬原爆を造り、日本各地で原爆投下訓練を行い、30都市に49発も落としました。ここで注目されるのが7月24日に1番多い4発も落とされた神戸です。神戸に模擬原爆を投下したB29の乗組員は、長崎への原爆投下時にあのボックスカー(B29)に乗っていました。</p> <p>この7月24日は、奇しくも米軍が当初の京都を外し、長崎を原爆目標都市に決めた日でした。</p>	<p>戦争の悲惨さを描く作品が多い中で、戦争とは多くの敵を殺す殺人行為という視点が新しい。これからの戦争を扱った番組制作に可能性を示す作品。</p>

## 第42回放送文化基金賞

### 「番組部門」

#### 演技賞

受賞者	対象番組	選考理由等
さとう たける 佐藤 健	天皇の料理番 (TBSテレビ)  テレビドラマ番組	夢中になるとのめり込んでしまう「のくてえ子」(だめな子)という難しい役柄を、多くのハードルを越えて演じ切り、ドラマの強力な牽引力となった演技は、秀逸である。

#### 演技賞

きき きりん 樹木 希林	いとの森の家 (NHK福岡放送局)  テレビドラマ番組	戦争の負の記憶ゆえに、今ある命を慈しみ、森の中で自然と一体となっているような人物を、見事に演じ、不思議な、強烈な存在感をみせた。
-----------------	--------------------------------------	--

#### 企画賞

おやまだ ふみやす 小山田 文泰	しあわせ食堂 笑顔と孤独と優しさ (青森放送)  テレビドキュメンタリー番組	地方民放局で時間をかけて取材をし、少子高齢化社会問題をあたたかい視線で描いた。
---------------------	--	---

#### 演出賞

はねい のぶひで 羽根井 信英	100分 de 平和論 (テレコムスタッフ/NHK /NHK エデュケーショナル)  テレビエンターテインメント番組	パネリストの選出、難解な書物の要約、ナレーションなど見事で、よく練られた番組になっている。
--------------------	--	---

#### 脚本賞

せとやま みさき 瀬戸山 美咲	あいちゃんは幻 (NHK名古屋放送局)  ラジオ番組	計算されたリアルなセリフによって、もろく崩れやすい現代の若者たちの気分を巧みな脚本で浮かびあがらせた。
--------------------	-------------------------------------	---

**第42回放送文化基金賞**  
**「個人・グループ部門」**  
**－ 放送文化 －**

受賞者	業績	業績内容・選考理由
さだまさし (シンガーソングライター、小説家)	多才な活動を通して放送文化の発展・向上に貢献	シンガーソングライターとして数々の国民的ヒット曲を生み出し、放送番組のテーマ曲も多く手がける。小説家としても全ての作品が映像化されている。1981年～94年ラジオの深夜放送『さだまさしのセイ!ヤング』(文化放送)でトークの才能を開花し、『今夜も生でさだまさし』(NHK)は2006年より深夜の人気番組として視聴者を魅了している。音楽・放送を通しての社会活動も積極的に展開し、地元長崎では平和祈念コンサートを長く続け、東日本大震災復興支援チャリティコンサートもスタート。その多彩な活動が放送界に残した功績は極めて大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
ふじい みのる 藤井 稔 (CBCテレビ プロデューサー)	優れたドキュメンタリー番組の制作と放送表現の開拓	1989年中部日本放送(現CBCテレビ)入社。『えんがわ』、『山小屋カレー』、『家族記念日』、『隣のプレイルーム』などの一連のドキュメンタリー作品は、「ひょっとすると自分のこと」と視聴者が感じられるような身近な素材を取り上げ、登場人物とその時代背景を見事に描写している。無駄な文字スーパーを抜き、アップ映像を無意味に撮らない“マイナスの発想”で、思わずクスッと笑ってしまう軽やかな番組作りに取り組んできた。その独特の手法と感性で、新たな放送表現を開拓してきた功績は大きい。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
「被災地からの声」 制作チーム (NHK仙台放送局)	震災直後から5年間にわたるウィークリー番組「被災地からの声」の制作	東北地方で東日本大震災の9日後に放送を開始し、震災から5年が過ぎた今も、東北では毎週、全国向けには毎月放送を続けている。ディレクターが行き先だけを決めてアポなしで被災地を訪れ、被災者に「いま伝えたいこと・訴えたいこと」を語ってもらい、ナレーションなし・最低限の編集で放送する。当初からキャスターをつとめる津田喜章アナウンサーのインタビューは被災者との対話であり、番組は被災地の復興のプロセスと人々の心の軌跡を記録した貴重な証言集にもなっている。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
NHK「ハートネットTV」班 戦後70年 関連制作チーム (NHK)	福祉の戦中戦後を振り返り、未来を考える一連の番組制作	NHK福祉班では戦後70年の節目に2015年1月から1年間、「福祉の戦中・戦後」を振り返る多くの番組を放送。Eテレの『ハートネットTV』や『戦後史証言プロジェクト』では高齢者・障害者や児童福祉の歩み、知的障害・精神障害者、ハンセン病、沖縄戦と障害者などをテーマに番組を制作。『E TV特集』ではナチスドイツの障害者虐殺を見つめた。NHKのアーカイブスと、福祉問題に取り組んできた経験の蓄積を生かし、公共放送ならではの役割を果たした。

## 第42回放送文化基金賞

### 「個人・グループ部門」

#### －放送技術－

受賞者	業績	業績内容・選考理由
FPU, SNG 共用受信アンテナ開発グループ 代表 鈴木 高幸 (テレビ朝日)	FPU, SNG 共用受信アンテナの開発	非常災害時に東京本社の番組送出機能が喪失した場合でも、関東一円への放送継続をするには、東京以外の系列局からSNGを用いて放送素材を伝送し、これを東京スカイツリーで直接受信し放送電波にすることが有効と考えられる。この場合、既に設置されているFPU受信アンテナでSNG受信することが求められ、FPU・SNG共用受信アンテナの開発を行った。試作機の段階であるが実用可能と認められ、今後の実現が期待される。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
廣田 和浩 (山陽放送)	HTML5を用いた自局放送プログラム確認システム「Tereco」の開発	放送同録装置をベースに営放システムと連携した番組・CM検索システムを開発し、編成スタッフが行う一般視聴者からの放送内容の問い合わせ、営業スタッフが行うスポンサーCM確認などの対応作業を各担当席で簡便かつ短時間で行うことを可能とした。地方局において、日常業務の合間に開発を進め、これまで時間を要していた確認作業が短時間で可能となるなど、作業の効率化と各種対応業務の品質の向上に寄与したことは評価できる。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
多視点ロボットカメラ開発グループ 代表 池谷 健佑 (NHK)	多視点ロボットカメラによる「ぐるっとビジョン」を用いた新しい映像表現技術の開発	被写体の周囲を回り込んで見ているかのような映像を得ることが出来る多視点映像は、これまでは多くの固定カメラを被写体の周りに配置するため設営に時間がかかり、かつ被写体が極めて小さい範囲に限定されていた。今回、カメラマンが操作する1台のカメラに対応した複数(15台)のカメラを連動制御させることにより設営が簡便でスポーツ中継のように広範囲で動く選手への多視点映像化を可能とさせた。新たな映像表現を拡大するとともに、放送のみならずスポーツ選手の育成への貢献も期待できる。

受賞者	業績	業績内容・選考理由
伊藤 正史 (フジテレビジョン)	現行地上波でHDと4Kのサイマル視聴を実現する番組技術の開発	Hybridcastで放送映像と同期した4K動画の再生を実現し、現行地上波で4K番組を視聴できる技術を実用化した。また、放送で緊急地震速報などが出された場合は緊急番組を放送させる機能も加え、放送の安心・安全も確保した。地上放送の電波では不可能であった4K放送を現行のHybridcastを利用することで巧みに実現し、既に本放送も実施、他社へも広がりを見せているほか、標準化へも貢献していることは評価できる。